

苫小牧市長 岩 倉 博 文 様

シルバー人材センターへのご支援についての要望

盛夏の候 貴職におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また平素から、当センターの運営につきましては特段のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

近年少子高齢化が進み人口が減少していく中で、働く意欲のある高齢者が年齢に関係なく活躍し続ける「生涯現役社会」を実現することが今まで以上に重要となっています。このような中、シルバー人材センターは高齢者の就業を通して、高齢者の生きがいや健康の増進と、地域社会の活性化に貢献したいと考えております。

当センターとしては、今後もこの目標達成に向けて役職員が一丸となって取り組んでまいりますので、下記の項目につきまして特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 平成 31 年度補助金の確保

従前から苫小牧市からの運営補助金については、国の基準に則ってセンターが国に申請する補助金額と同額を交付いただいているところです。厳しい財政状況の中大変恐縮ですが、平成 31 年度につきましても是非確保いただきますようお願い申し上げます。

2 公共事業の発注の確保

高齢者が行うことが可能な業務につきまして、以前より苫小牧市から様々な業務を受注させていただいております。今後も当センターの目的をご理解いただき、空家の見回りなどシルバー会員でできる業務があれば、発注の際には特段のご配慮をお願い申し上げます。

3 センター事務所の確保

当センターが事務所として使用させていただいている苫小牧市労働福祉センターは、市民ホール建設に際して統廃合の対象となっていることから、活動拠点としての事務所の確保につきましては、特段のご配慮をお願い申し上げます。

平成 30 年 7 月 30 日

公益社団法人 苫小牧市シルバー人材センター

理事長 熊 木 功

苫小牧市長

岩倉博文様

「生涯現役社会」を実現する

シルバー人材センターの決意と支援の要望

我が国においては、少子高齢化が進み人口が減少している中で成長力を確保していくために、働く意欲と能力のあるすべての高齢者が年齢にかかわらず活躍し続けることができる「生涯現役社会」を実現することがますます重要となっております。

このような中で、シルバー人材センターは地域の日常生活に密着した就業機会を提供するなどにより、高齢者の「居場所」と「出番」をつくり、「生涯現役社会」の実現を果たす役割を担っており、併せて、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進を実行し、地域社会の活性化と医療費や介護給付費の削減に寄与しているところです。

昨年三月に働き方改革実現会議が決定した「働き方改革実行計画」においても、「健康づくりやフレイル対策を進めつつ、シルバー人材センターやボランティアなど、高齢者のニーズに応じた多様な就業機会を提供する」とされており、シルバー人材センター事業の果たす役割の重要性と地域社会の期待は一層大きなものとなっております。

こうした中、シルバー人材センター事業の発展・拡充は、国の施策の実現や地域社会の期待に応えるために喫緊の課題であります。このため、平成三十年度から平成三十六年度までの七年間を期間とする「第二次会員百万人達成計画」を策定したところであり、これに基づき、平成三十二年までに八十万人、そして、平成三十六年度には、会員百万人を目指して、会員増加の取組みを一段と強めて参ります。

さらには、シルバー人材センターは「自主・自立、共働・共助」という理念のもと、国及び地方自治体の施策、地域ニーズに対応し、

- ① 介護保険制度改正に伴う介護予防・日常生活支援総合事業などの要支援高齢者に対する事業
- ② 子育て中の現役世代や子供たちへの支援事業
- ③ 人手不足の地元企業に向けたシルバー派遣等の事業
- ④ 空き家管理、遊休地を活用した農園事業などの事業

また、労働者派遣又は職業紹介での働き方において、都道府県知事が指定する業種・職種について週四十時間まで就業が可能となった特例措置を有効的に活用し、現役世代の下支えや人手不足分野での労働力確保に貢献するとともに、適正就業ガイドラインを遵守し、地域社会の維持・発展と就業意欲の高い高齢者の受け皿としての役割を果たして参ります。

つきましては、平成三十一年度のシルバー人材センター事業の推進のために必要なセンターに対する補助金等の確保を要望いたします。

特に、国においては一般会計を財源とする補助金の確保、また、都道府県・市区町村においては国の補助金と同額以上の補助金の確保、さらには、センターに対する市区町村等の公共からの事業発注の確保について、強く要望いたします。

また、シルバー人材センターの多くは、事業規模が小さく財政的には不安定であり、経済変動などによりたちまち財政難に陥る危機を孕んでいます。公益法人が事業を継続的・安定的に運営できるよう、「特定費用準備資金」について、剰余金を赤字年度及び災害等、将来の収支変動に備えた資金や運転資金として積み立てることを可能とする見直しを、強く要望いたします。

平成三十年七月三十日

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会
平成三十年 度 定 時 総 会

公益社団法人苫小牧市シルバー人材センター